

織田信忠は織田信長（1534 -1582）の嫡男で相続人であり、1576 年から 1582 年まで岐阜城を統治していた。

彼は多くの主要な戦いで彼の父親に仕えた後に熟練した将軍となり、彼自身でいくつかの戦いで軍を率いた。

1575 年の岩村城の包囲戦で、強力な敵である武田氏を倒した。

彼はまた、武田に対し、信貴山城（1577 年）と高遠城（1582 年）の包囲を指揮した。

1567 年の織田家と武田家の和平交渉の一環として、信忠は武田信玄(1521-1573)の娘である松姫（1561-1616）と婚約したが、織田家と武田家の和平協定は、5 年後の 1572 年に信玄と彼の部隊が隣接する三河を侵略し、織田の味方である徳川家康（1543-1616）が打ち破られ、破棄された。その後の戦いの中、信長が京都の本能寺に滞在し、信忠が二条城の部隊と共にいる間、信長の重臣であった明智光秀（1528 - 1582）が信長を裏切りこれを攻めた。信長を打った後、明智とその部下は二条城にいる息子の信忠に注意を向けた。囲まれた信忠は切腹（seppuku）をした。彼の父親のように、彼の頭は決して見つけれなかった。